

第 19 回鹿児島県障害者スポーツ大会

《卓球競技 競技規則》

1 競技は、全国障害者スポーツ大会競技規則及び現行の日本卓球ルールを適用する。

2 一般卓球及びサウンドテーブルテニスに共通する事項について

- ① 試合は、すべて決勝リーグ戦で行い順位を決定する。
各マッチ5ゲームマッチ（サービスは2本交代）とし、1ゲームの勝敗は、11ポイント先取した競技者を勝ちとする。ただし、両方の競技者の得点が10ポイントに達した後（サービスは1本交代）は、2ポイント差とした競技者を勝ちとする。
- ② 競技用服装（シャツ、ショーツ、スカート）はJTTA公認マークが付いているものを着用することとする。ただし、身体等の障害により規則で定められた服装の着用が困難な場合は『服装緩和措置申請書』を事前に審判長に提出し許可を得ること。
ゼッケンは、主催者が用意したものを背部につけること。
- ③ ラケットは、規定のものを各自で準備すること。
- ④ 出場者の少ない障害区分・年齢区分別等では、別の障害区分・年齢別区分の選手と併せて1ブロックを構成することがあるが、順位の決定・記録の認定・表彰については、それぞれの障害区分・年齢区分別に行う。
- ⑤ 棄権の場合は、事前に届ける。
- ⑥ 表彰は行わず、各組ごとの競技が終了し試合結果が出たら随時メダルを渡す。
- ⑦ 試合進行により、コート及び時間を変更することがある。
- ⑧ リーグ戦の勝敗決定は、勝者2点、敗者1点、不戦敗0点で計算し、2者同点の場合は、双方の対戦の勝者が上位とする。3者同点の場合は、3者間の対戦の試合得点による。
順位決定方法は、勝ちゲーム／負けゲーム、更に必要に応じて、勝ちポイント／負けポイントを比較して順位を決める。

3 一般卓球について

- ① 試合球は、日本卓球協会公認の「白色スリースター」40mmプラスチック球とする。
- ② 車椅子を使用している競技者が、正しく出されたサービスをレシーブする際、ボールがレシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻ったり、レシーバーのコートに止まったり、どちらかのサイドラインを横切った場合、サービスはレット（やり直し）となる。
ただし、ボールが台上にあるうちにレシーバーが打球した場合は有効となる。

4 サウンドテーブルテニスについて

- ① 試合球は、40mmの球体で、その中に金属球4個が入った総重量3.6g～3.8gのものとする。
- ② アイマスク、又はアイシェードは各自で用意する。